

## 課題

- 交通分担率が約7割と過度なマイカー依存により、公共交通の維持が困難
- 冬期間の通勤・通学送迎が状態化し、朝夕の慢性的な交通渋滞と地域の経済損失を招いている。

## プロジェクト概要

[交通サービスの高度化(マルチモーダルかつシームレスな移動体験の提供)]

- エリア内の鉄道及び路線バス、乗り合いタクシーを含めた定額利用が可能なMaaSアプリ(ブラウザベース)を導入する
- 経路検索機能を付与するとともに対象の交通機関の乗降時、QRコード読み取りとスマートフォンの位置情報からスマートな利用者の乗降とODデータの収集を実現

[モビリティ・データの取得と活用]

- 乗降時、QRコード読み取りとスマートフォンの位置情報から自動的にODデータを取得する。
- ODデータとGTFSを活用し、路線ごとの利用状況を可視化し、効率的且つ機能的な経路や運行回数、代替交通を検討するためのデータとして活用する。
- MaaSアプリ内のデジタル地域通貨基盤を利用した消費・購買データを活用し、行動変容と経済循環による更なる地域活性化の検討

[地域交通政策等との連携]

- 弘前市地域公共交通計画(R6～R10)では、弘前市に相応しい、質の高い公共交通サービスの提供の方針に掲げており、MaaSアプリから取得したODデータや利用者情報を活用し、適正な運行本数やバス停位置、路線再編に活用する。

## 効果

- 定額乗り放題サービス利用者数の増加 (R6:81名[2か月] → R7:800名[4か月]) ※月別累計
- 定額乗り放題サービス利用前後の公共交通利用頻度の増加(R6:59% → R7:80%)
- 定額乗り放題サービス(MaaSアプリ)利用満足度の向上 (R6:59% → R7:80%)
- 定額乗り放題サービス利用者のご家族の送迎負担の軽減割合の増加(R6:78% → R7:85%)

## 事業の新規性

- 東北管内において、異なる交通モードを合わせて定額利用が可能なサービス提供がなく、本事業によりマルチモーダルかつ料金を気にすることなくシームレスな移動体験が可能なMaaS基盤を導入
- MaaS基盤は、デジタル地域通貨機能を具備しているため、移動体験と合わせて購買消費による地域経済の活性化を図る

## 事業エリア/交通事業

弘前市内を運行する、以下の公共交通事業者  
バス:弘南バス 鉄道:弘南鉄道 乗り合いタクシー:北星交通  
※この他、レンタサイクル事業者等を検討

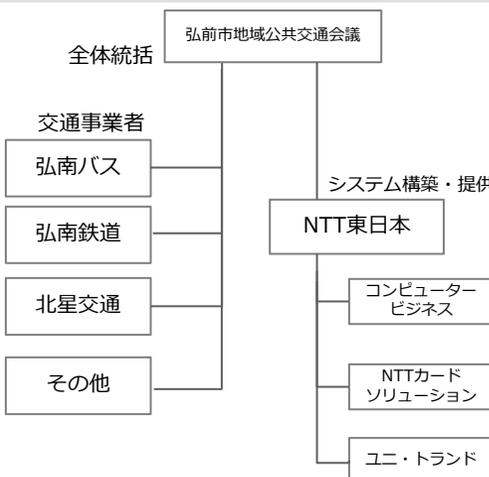
## MaaSアプリ等

- MaaSアプリ:コンピュータービジネスNextPass ● ダッシュボードシステム:Tableau (決済API連携開発)
- オンライン販売・決済システム:NTTカードソリューション(API利用)
- 公共交通データ:GTFS-JP

## データの活用等

- データの取得方法:MaaS基盤内のMaaS機能からODデータ、デジタル地域通貨機能から購買消費データを取得
- データの活用方法:ODデータから最適な交通ネットワークの検討および、移動・購買消費データの分析により、行動変容と経済循環を促す施策の検討に活用

## 座組



## スケジュール

スケジュール	要件定義
4月	要件定義
6～10月	決済システム開発
11～2月	実証
1～2月	効果測定
令和8年度	対象期間・エリア拡大
令和9年度	実装